

名古屋港湾事務所所属「清龍丸」の3つの任務

1. 港湾整備（通常時）：

航路（船の通り道）や泊地（船の停泊場所）を深く掘り下げる浚渫作業に従事しています。

★大型・高効率・高精度の浚渫設備を装備しています。

大型船舶の航行を可能とし、「ものづくりの中部」の輸送コスト（原材料供給、製品出荷）の低減に寄与しています。

地域の防災力強化に寄与しています。

3. 災害支援（大規模災害時）：

被災状況の把握、緊急の人員・物資輸送などに従事しています。清龍丸内には、ヘリコプターデッキや災害対策室などを装備しています。

2. 油回収（大規模油流出時）：

現場海域に出動、油回収作業に従事しています。

★油の状態に応じた2種類の回収器を装備しています。

- ・全長104.00m
- ・幅 17.40m
- ・深さ 7.50m
- ・喫水5.60m
- ・総トン数 4,792トン
- ・乗組員28名
- ・試運転最大速力 13.5kt（約25km/h）

海底土砂の吸い込み口

油回収器

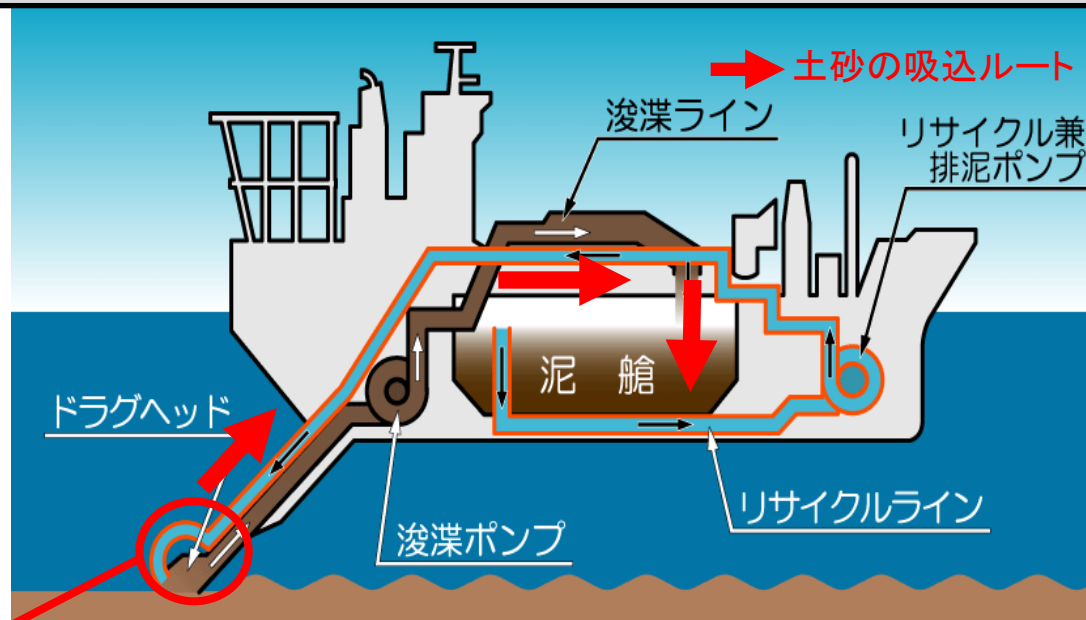
日本最大の浚渫兼油回収船

ヘリコプターデッキ

浚渫作業 ～24時間作業(3交代制)～

- ・名古屋港の**入港船舶は3～4万隻/年** ⇒ 他の**船舶の航行を妨げない作業**が不可欠です。
 - ・**自走しながら浚渫作業**が可能。
 - ・**24時間作業**(3交代勤務体制)。
- 他船の航行を避けながら機動的・効率的な作業が可能です。
また、1サイクルで土砂を約**600m³**(ダンプトラック100台分) **浚渫**します。

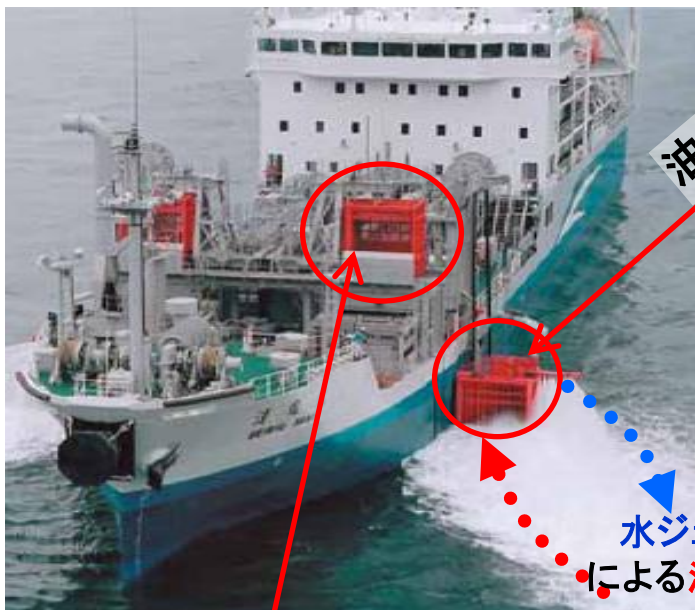
- ・船体後部の土砂吸い込み口(ドラグヘッド)を海底に降ろします。
- ・自走(時速4～7km)しながら浚渫ポンプの力で土砂吸入します。
- ・その後、船内の土砂タンク(泥艙)が一杯になると土砂処分場に陸揚げします。



油回収作業 ～流出油の様々な状態に対応・最先端の回収技術～

2種類の油回収器を搭載しており、時間経過などで状態が変化する流出油に対応しています。海面まで回収器を降ろし、時速2～5kmで航走しながら浮遊油を回収します。また、水ジェット集油装置で回収器に浮遊油を誘導することが可能です。

油回収タンクに約1時間で1,000klの
油水を回収可能！（ドラム缶約5千本分）



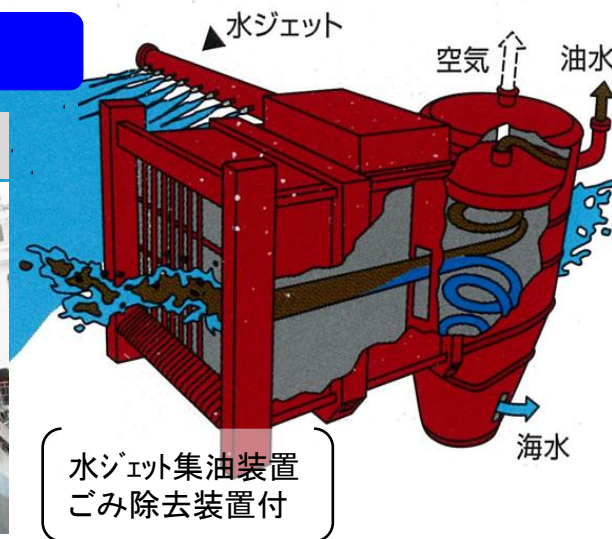
油膜状の油

水ジェット噴射
による油膜の誘導

オイルボール状など固形化した油

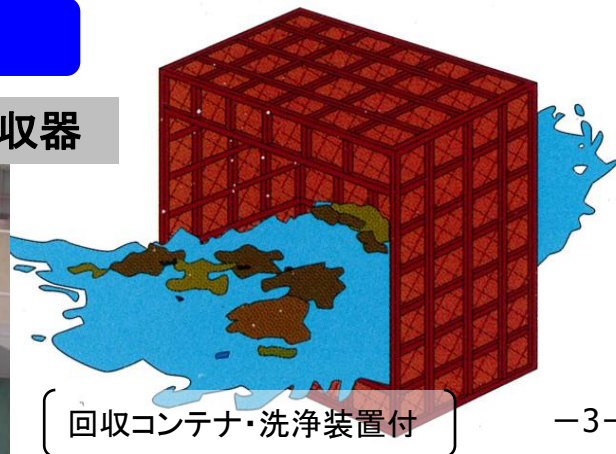
やわらかい油用

渦流式油回収器



固まっている油用

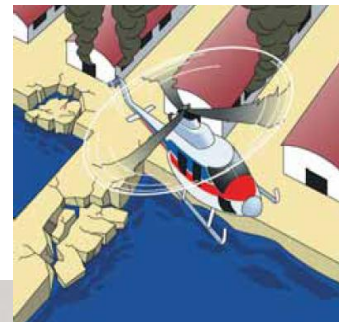
スキッパー式油回収器



災害支援 ～各種の防災機能を装備～

・迅速な**被災状況の把握**、**人員・物資輸送**に対応可能です。清龍丸には、**ヘリコプターデッキ**や**災害対策室**なども装備しています。

ヘリコプターデッキ



防災拠点として活用

災害対策室



高感度望遠カメラ



災害支援 ～東日本大震災直後の清龍丸による支援物資輸送～

- ・陸上輸送が困難な被災直後に釜石港、大船渡港まで緊急支援物資(食料品、飲料水、生活用品)や小型バックホウ等を運搬しました。



【釜石港での緊急支援物資荷おろし写真】

